

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	社会福祉法人広野保育所	施設種別	保育園 (旧体系： )
評価機関名	一般財団法人社会的認証開発推進機構		

平成29年2月17日

総 評	<p>宇治市にある社会福祉法人広野保育所は、昭和24年に開設以来、隣地に設立されたひろの幼稚園と連携し、地域に根差した保育実践を長年にわたって行われています。「君にいい風送りたい」というキャッチフレーズのもと、①優しく思いやりのある子ども、②お友達の言葉を素直に聞く子ども、③さわやかな汗を大切にしている子ども、④最後まであきらめない子ども、の成長を組織理念として保育活動を実施されています。</p> <p>「トトロの木」を中心にした日当たりの良い園庭に面した園舎を中心に、開放的なテラスも設置され、四季を感じながら子どもたちが毎日を気持ちよく過ごせるように工夫されています。チームワークの取れた職員集団は、個人懇談だけにとどまらず、園行事の折には、保護者の協力を得て活動を行ったり、試食会の実施をするなど、保護者と園が一緒になって、園全体で子どもを育てていくという姿勢がうかがえます。</p> <p>また、高い保育サービスの質の提供を目標に、一人ひとりの子どもへの「個別指導記録」の更新や、各種保育に関係するマニュアル作成とその活用は、毎年の見直しや改訂状況がしっかりと確認できます。訪問調査時にも、同園の子どもたち一人ひとりの育ちや発達に配慮した給食時間の様子や、保育士からのゆったりとした声掛けなど、保育活動や保育実践の成果の一端がうかがえました。</p> <p>また、ホームページにも記載されている「働きやすい環境を目指して」という重点目標は、職員間のコミュニケーションやチームワークをはぐくみ、教職員から生まれた「毎日の目標（5条件）の1. 明るいあいさつ、やさしい笑顔、2. 報連相（報告・連絡・相談）をしっかりと、3. 相手の目を見てありがとう」などにしっかりと表れています。また、保育士個々のレベルアップ・スキルアップのためのしっかりとした研修制度が構築されており、新卒フォロー研修、フォローアップ研修、スキルアップ研修、リーダー研修と、保育士としての成長を段階的に促す工夫が多くみられます。また、職員の労働環境や状況を適切に把握し、有休休暇取得率は100%近くであることなど、職員への労働条件への配慮や、職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組まれています。</p> <p>玄関前では、登園降園時の警備員による誘導や、廊下での「止まれ」のサイン、子どもの遭遇する可能性のある事故の新聞記事などの掲示があり、子どもの安心・安全についての注意喚起の姿勢が至るところに見られ、子どもが安心して、心地よく過ごすことのできる環境整備への思いが実践につながっていると感じました。</p> <p>今回、第三者評価は初受診でしたが、細やかに園全体で自己評価に取り組まれていることが確認でき、第三者評価での今回の結果をもとに、さらに改善に取り組まれることを期待しています。</p>
-----	---

<p>特に良かった点(※)</p>	<p><b>I-2-(2)</b>          保育計画がしっかりと策定されており、その計画の目標を達成するための7つのプロジェクトチーム(「情緒」「食事」「睡眠」「清潔」「脱着」「排泄」「遊び」)を機能させ、全職員で定期的な見直しや確認をしています。また、詳細な検討や工夫が加えられていることが、月案や日案の記載内容からも見受けられ高く評価できます。</p> <p><b>I-3-(2)</b>          保育サービスの質向上を図るため、自己評価を毎年継続されていることは高く評価できます。『保育士のための自己評価チェックリスト』(萌文書林編)を活用され、300項目にもわたる自己点検・自己評価が詳細にわたって実施されており、しっかりとした振り返りを行うことで、各職員の成長の糧となっていました。</p> <p><b>II-2-(3)</b>          職員の質の向上に向けて「新卒フォローアップ研修」、「フォローアップ研修」、「スキルアップ研修」、「リーダー研修」と、各段階での研修が用意されています。参加した研修内容は、職員会議や回覧を通して、職員間で共有されています。これらの研修を通じて、PDCAサイクルを意識した自己研鑽の取組みがなされていることが確認できました。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p><b>I-2-(1)</b>          中・長期的なビジョンは語られており、計画や実施等も順次行われていることが口頭では聞き取ることができました。しかし、計画書としての文書化はなされていませんでした。今後、計画書として明文化することで、中長期の展望を教職員と共有し、地域へ発信されることで、将来の展望が地域にも理解されますことを期待しています。</p> <p><b>I-3-(1)</b>          管理者は、保育サービスの質の向上に意欲を持ち、組織としての取組みに指導力を発揮されていますが、ホームページやパンフレットには管理者としての意思が表明されているものが確認できませんでした。「保育園の主役は教職員である」という管理者である所長の意向により、意識的にボトムアップ型の管理体制は敷かれています。今後、ホームページの閲覧者や、初めて園に訪問される方へ管理者の意識表明や、職員集団の形成への工夫をされている様子などを詳しく発信されることで、保護者や地域からもさらに理解が深まると思います。ぜひ、さまざまな発信を検討されますことを期待しています。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【保育所版】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	社会福祉法人広野保育所
施設種別	保育園
評価機関名	一般財団法人社会的認証開発推進機構
訪問調査日	2016年12月27日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	B	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	B	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	B
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	B	B
		I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A
	② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。		A	A
	③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。		A	A
	④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。		A	A
	⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	B	
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	A
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	B

[自由記述欄]

I-1-1 (1) 法人・保育所の理念と保育の基本方針、基本目標や保育目標が明文化されたものが「広野保育所 保育課程」に記載されているため①②は自己評価BをAとした。

I-1-1 (2) 保育理念・基本方針・基本目標・保育目標が記載された「広野保育所 保育課程」を全職員に配布し、年度初めの職員会議や日々の朝礼で、職員間での読み合わせを行っていることが聞き取りと会議録から確認できた。入所説明会で「入所案内書（重要事項説明書）」を利用者には配布されているが、基本方針を伝えるにとどまっている。

I-2-1 (1) 中長期計画は、耐震化への複数年度にわたる改修工事計画の策定があることや、利用者ニーズを把握した上で、保育方針や複数年の目標に反映している事例は聞き取れたが、中長期計画の文書の策定はされていなかった。

I-2-1 (2) 保育計画の策定は、アンケートや懇談会、日々の連絡帳に記載された利用者の意向を考慮して作成されていることを聞き取った。子どもの発達の記録を日々更新するとともに、月末の「カリキュラム検討会」、月1回の職員会議や給食会議で年間指導計画を元に策定された日案、週案、月案にて確認されている。また、通年で「情緒」「食事」「睡眠」「清潔」「脱着」「排泄」「遊び」の7つのプロジェクトチームがあり、全職員で定期的な見直しや確認をしており、きめ細かく検討が加えられていることが会議録から確認できた。加えて、日案や月案の作成と更新にはパソコンが活用されており、文字の入力の際に変更箇所はゴシック体に統一するなど、一見してわかりやすい工夫がなされているが、保護者への周知がなされている状態は確認できなかった。

I-3-1 (1) 管理者自らの役割と責任の表明は、職員名簿や体系図、職員紹介の資料に園長の位置づけと顔写真の紹介はあるが、パンフレット（入所案内）や入所案内書（重要事項説明書）に管理者の挨拶やメッセージの掲載は確認できなかった。法令遵守については、「法令ファイル」が確認でき、職員への周知がはかられていることを確認したため、自己評価BをAとした。

I-3-1 (2) サービスの質の向上を図るため、管理者のリーダーシップのもとに定期的・継続的に研修や『保育士のための自己評価チェックリスト』（萌文書林編）を導入し、300項目の自己点検が実施されている。また、職員研修の結果は、職員会議で報告された後、回覧を通して職員間で共有されていることを確認したため、①の自己評価BをAとした。ただし、経営や業務の効率化と改善、サービス向上に向けては、組織内の意識形成や具体的な体制を構築することに一定の課題が見受けられる。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	A
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	B
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。		B	A	
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	B	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	非該当	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	C	A

[自由記述欄]

II-1-(1) 組織の経営環境についての把握は、宇治市の担当者との情報交換が毎月保育園で行われており、待機児童の人数をはじめ潜在的利用者の状況や、地域の環境変化の現状について、把握されていることが聞き取りから確認できたため、自己評価BをAとした。

II-2-(1) 2016年11月に開設したホームページに、「求める人物像と働きやすい環境」を記載している。「明るいあいさつ」「報連相をしっかりと」「相手の目を見てありがとう」「思いやりの心」など、5つの具体的な毎日の目標を掲げた「5スターカード」の取組みが職員の発案から行われていることが聞き取りから確認された。人員体制のは正職員と非常勤職員の比率等に考慮された人材に関する具体的なプランが確立され、人事管理がなされていることが聞き取りから確認できたため、自己評価BをAとした。

II-2-(2) 職員の就業状況への配慮については、有給休暇が全員が消化できるよう奨励されており、100%の達成度合いであることが聞き取りから確認できたが、カウンセラーや専門家との連携はなされてはいない。なお、職員の問題解決に向けた取り組みとして、定期的な主任との面談を行う体制を確立していることが確認できたため、自己評価BをAとした。

II-2-(3) 個別の職員の知識、技能水準など「キャリアパス」に基づいて把握されていることを文書により確認した。また、職員の教育・研修については、「教育・訓練計画書」が策定され、職員会議での研修発表や資料回覧を通して、職員間で共有されている。また、次年度にも有効な研修は、今後の研修計画に反映する仕組みになっていることが聞き取りと文書から確認できたため、自己評価BをAとした。

II-2-(4) 実習生の受け入れについては、目的と手段が規定された「実習生を指導するために」というマニュアルと実習予定表があり、それに基づいた運用がなされていることが確認できた。京都文教短期大学からは毎年、その他の大学等からも受入実績が資料から確認できた。

II-3-(1) 地域との交流と連携は、中高生の職業体験の受け入れ、年長児の宇治市植物園のイベント参加、地域への園庭開放、地域自治会への所長の参画などが聞き取りから確認できたため、自己評価BをA評価とした。また、ボランティア受け入れは、地域子育て支援基幹センターからの受入依頼に対応していることを聞き取り、ボランティア受け入れに関する意義・方針の明文化やマニュアル類も確認できたため、非該当をA評価とした。

II-3-(2) 必要な社会資源は、関係団体の一覧が資料として作成され、電話の横に掲示されていることや管理者の携帯電話への登録、3年に1回、児童相談所と会議がもたれていることを聞き取りと文書から確認できたため、自己評価CをAとした。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-2 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	B	B
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	非該当	C
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	A
	Ⅲ-2-2 サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	B	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-1 サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-2 サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	A

[自由記述欄]

Ⅲ-1-1 (1) 利用者のプライバシー保護については、保護者に配布の「ペアレンツハンドブック」に「個人情報保護方針」として規定されており、マニュアルにも明示されている。また、職員研修、内部研修の計画表などで、利用者のプライバシー保護については、職員の意識向上が積極的に図られていることが計画表などで確認できた。また、パンフレット、ホームページへの写真等の掲載についても、承諾書をもらうなど、徹底していることを文書・聞き取りから確認したため、自己評価BをA評価とした。

Ⅲ-1-1 (2) ①苦情解決の仕組みとしては、京都経営者協会の「苦情（意見）処理ネットワーク（CCN）」に加入しており、そのパンフレットを保護者に配布している。また、「苦情規定書」が定められていることを確認した。なお、苦情への対応策や改善事例など、意見を反映する仕組みはできており、保護者へのフィードバックはされているが、その内容の公表はされていない。

Ⅲ-2-1 (1) 今回、第三者評価受診が初めてであったため①はC評価となったが、今回の受診を契機として今後の受診評価体制の構築が期待できる。②の自己評価については、300項目にわたる『保育士のための自己評価チェックリスト（萌文書林編）』が活用され、担当部署が定められた上で、分析検討の場が設けられていることを確認した。自己評価表に基づいた評価結果を、個人面談やクラス間の保育士チーム形成にも活かしており、保育への改善にもつながっていることを聞き取ったため自己評価BをA評価とした。

Ⅲ-2-2 (2) 子どもの身体状況や生活状況については、「家庭調査表」「入所時面談表」「離乳食調査表」の書式が活用されており、給食嗜好調査による結果等を記載するなど、子どもの身体状況、生活状況を詳細に把握しており、面談などを通じて来年度に向け見直しがなされている。子どもの記録管理については園長・主任が管理責任者となり、保存方法や個人情報の保護と開示、プライバシー情報の管理、職員としての守秘義務遵守などについて、必要な管理をされていることを確認した。しかし、保管・保存・廃棄に関する文書規程の整備がなされていなかった。利用者の状況等に関する情報は、毎月カリキュラム会議が実施されており、部門横断的に伝達事項ノートやアセスメント表を活用した取組みがなされていることを確認した。

Ⅲ-3-1 (1) 利用希望者がサービス選択をするにあたっては、パンフレットや「入所案内書（重要事項説明書）」、ホームページなどで園の理念や保育サービスの内容が理解できるよう紹介がされている。入所説明会も開催され、音楽発表会の風景の動画や保育実践の写真を使用した説明がなされていることを聞き取った。また、入所案内書に、保護者への気になる項目を設けた説明が工夫されたりしていることが確認できたため、自己評価BをA評価とした。

Ⅲ-3-2 (2) ①利用者の転園にあたり、「退所見のために」の文書が作成されており、保育の継続性に配慮した手順と引き継ぎ文書が定められていることを確認した。また、保育が終了した後も、保護者等が相談の機会を持っている事例などから自己評価BをA評価とした。



IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	B	B
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる		非該当	A	

【自由記述欄】

IV-1-(1) 子どもの健康管理は、「もしも子どもが発熱したら」「子どもが熱性麻疹を起したときのために」などの「健康管理マニュアル」がまとめられており、すぐに確認して対応ができるよう手順が定められていることを文書で確認した。また、職員間には口頭もしくは伝達事項ノートで周知し、保護者への伝達も、その日の状況については口頭もしくは連絡帳で適切な連絡がなされている。

園医への相談記録帳を作成しており、健康診断の結果は「連絡帳」・「出席ブック」にて保護者に伝達されていることを聞き取った。また、その内容等は職員会議で報告がなされるなど、職員間の情報共有が図られている。また、「歯牙・健康診断記録」は3年間の記録として継続して観察されていることを確認した。

感染症発生時に対応できる対応マニュアルを文書にて確認した。感染症が発生した場合は、全教職員に保育士室のホワイトボードにて通知している。また、張り紙などで保護者へ速やかに通知、登園、降園時に目につくよう掲示している。また、感染症研修を実施し、職員の知識向上を図っていることや、マニュアルを定期的に見直し改定を図り、一目で分かるような工夫されている。

子どもの月例や発達状況をもとに、給食を時間差で摂れるようにするなどの配慮がなされているが、子どもが育てた野菜などを料理に取り入れる取り組みには至っていない。「嗜好調査」を実施しており、メニューの工夫に活用している。子どもの喫食状況は、給食会議や検査表、残食チェック表などから、個別の嗜好調査表に記録し、子どもの食事量や嗜好を把握し、離乳食も含め、献立作りに活かしている。七夕、ひなまつり、クリスマスなどの行事食で季節感を大切にしており、手作りのおやつも形状や素材を考慮し、楽しめる内容の工夫がなされている。子どもの食生活の充実のため、毎月20日に献立表を配布し、味や調理状況が分かるよう工夫している。学期ごとの大掃除の際には、その日の担当保護者向けの試食会を開催している。家庭でできる調理などのレシピをお知らせに掲載するなど、家庭と園が連携していることを確認したため、自己評価BをAとした。

アレルギー疾患のある子どもに対しては、必ず医療機関からのアレルギー診断書の提出を求めている。献立表にもアレルギー材料一覧を掲載しており、毎月保護者からチェックしてもらい、その後、担任、栄養士の三段階で確認し、状況の把握に努めている。アレルギーの子ども専用のランチョンマットや除去食用の専用盆を使用し、担任以外の保育士も注意できる環境に配慮している。

IV-1-(3) 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、平成23年4月に園舎が新しく増築され、一人ひとりの状況・発達に合わせた保育室の位置やトイレの配置に工夫がみられる。円形に配された保育室は明るく風通しの良い設計になっている。各保育室には、発達に合わせて畳やマットが配置されており、2階には午睡室があり、食事スペースと分けられ、睡眠確保に配慮されている。手洗い場、トイレも子どもの使用しやすい高さで、清潔に保たれており、保育室清掃は点検表でのチェックを確認した。

様々な表現活動の場面では、保育士の笑顔での優しい口調、わかりやすい表現での対応がなされており、ゆったりとしたペースの中で、子どもたちの自主性が発揮できるような配慮がなされている。否定語を肯定語にして話すことを心掛けている様子が訪問時にかがえた。

また、⑪に関しては、自己評価は非該当とされていたが、発達障害の子どもへの保育受け入れの様子を聞き取り、障害のある子どもや周りへの配慮、保護者との対応等がなされていることを聞き取ったため、A評価とした。

## IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当

### [自由記述欄]

IV-2-(1) 入所児童の保護者への育児支援では、希望者には年間3回の個人懇談の場を設定、面接記録を作成するほか、子どもの様子や保育の取組みなどを「連絡表」で保護者に伝える他、参観や親子スイミングなどの多くの保育参加行事の実施を確認できた。また、必要に応じて随時懇談の設定や給食試食会の開催を聞き取った。

IV-2-(1) 虐待が疑われる子どもの早期発見のため、「虐待発見対応マニュアル」が整備され、5月の職員会議にて周知されていることを確認した。当該児童の毎月の出席状況や保護者・子どもの様子などの情報を記録し、必要に応じて児童相談所などの専門機関との連携が行われていることを文書により確認した。

IV-2-(1) 子どもの発達記録やケア記録は、「月間指導計画」と「領域別発達段階過程」が連携して作成されており、一人ひとりの入園時からの様子を記録、乳児クラスの個人月案や保育日誌、身体測定表に記録され、保育指導計画に反映していることを確認した。また、小学校との連携のために、「宇治保幼小連絡協議会」などにも参加していること確認したため、自己評価BをAにした。

IV-2-(2) ①一時保育はされていないため、非該当。

## IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

### [自由記述欄]

IV-3-(1) 安全・事故防止に関しては、「給食室衛生管理マニュアル」「食中毒対応マニュアル」が秀逸に作成、活用されており、年度末にはマニュアルの見直しが行われていることを確認した。

IV-3-(1) 事故防止のための「固定遊具・設備点検表」「固定遊具・設備管理手順書」「ヒヤリハット報告書」が整備されている。パソコン内の共有フォルダには、事故や災害時のマニュアルも整備されている。その他、チェックリストの活用、緊急地震速報、防災地震放送などが園内に流れる工夫もされており、避難訓練も定期的に行われていることを確認した。

IV-3-(1) ⑤不審者の侵入に備えた「もしも不審者が侵入したら」のマニュアルの設置がされており、防犯のための警備会社への契約もなされているが、警察などとの連携のもとで、マニュアルに基づいた職員に対する研修が未整備であったため、自己評価・第三者評価ともB評価となっている。